

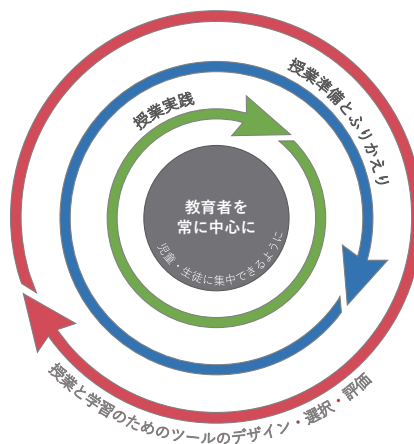
“AI and the Future of Teaching and Learning”(人工知能と教育・学習の未来について*)要約

文責：白水 始(*抄訳では「未来」の係り受けがわかりやすいように語順を変えた)

AI はデータの中にパターンを同定する能力、および自動的な判断を下す能力の二つにおいて、今日のテクノロジーをはるかに凌駕し始めている。逆にそれは、パターンを同定の際のバイアス、そして不公平な判断の可能性というリスクを増す。だからこそ、教育リーダーは AI をどう開発・活用するかの方針を創るべきである。

これからの AI の利点として、1. 新しい相互作用の形を可能にし、2. 生徒の多様性(long tail of variations)に対応し、3. 教師にも生徒にも質量とも豊富化したフィードバックを提供する点で、4. 教師を助ける可能性がある反面、5. データ保護やセキュリティのリスクを高め、バイアスや不公平さなど新しいリスクをもたらす。

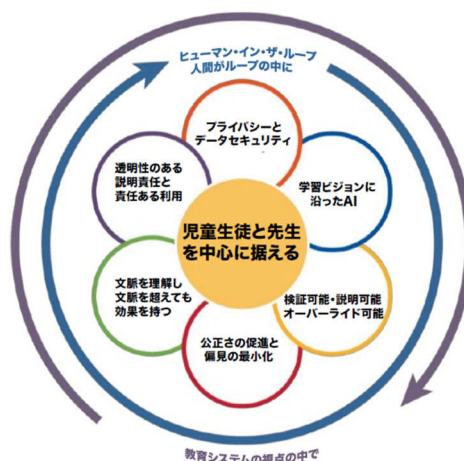
そこで、七つの提言を行う。第一に、AI を教師の代替とするのではなく、AI のパターン同定から児童へのフィードバックのループの中に必ず教師など人を媒介させる Human-in-the-Loop(右図)を提唱する。教師は授業実践や授業準備と振り返りのループにAIを使うだけでなく、AIをデザイン・選択・評価するループにも必ず参画すべきである。



第二に、AIに内在している学習モデルを同定し、それを関係者全員で共有した教育ビジョンと整合(aligned)させるべきだ。

第三に、AIを開発する側は学習科学からわかってきている学習の原理や教育実践現場の知恵に基づいて開発すべきである。

第四に、信頼を強化することを優先すべきである。7 百名超対象の 4 回の公聴会で、AIは十分には信頼されていないこと、また信頼されていないツールは効果が発揮しにくいことが見えてきている。だからこそ、信頼を構築すること、そして信頼性の基準を確立することを急ぐべきだ。



第五に、教育者に様々な状況・情報を知らせ、巻き込むこと、第六に、研究開発は実際の学校現場にフォーカスし、信頼と安全性を高めることに注力すべきこと、第七に、(たとえ個人情報保護がカバーしている場合でも)教育に特化した、そのニーズを良く踏まえたガイドライン(情報開示、テクノロジー調達時チェックリスト)やガードレール(規制や付帯要求の強化)を作成すべきだということを提言したい。